

令和3年度 滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」研修会 (新規導入市町等対象) 開催報告

- 趣旨** コミュニティ・スクールおよび地域学校協働活動を導入する(予定も含む)市町・学校の事業担当者や地域学校協働活動推進員等を対象に、事業の趣旨や運営上の留意点などを説明するとともに具体的な体制整備に向けた手立てを学ぶ機会とする。また、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進の方策について理解を深め、普及につなげる。
- 主催** 滋賀県教育委員会
- 対象** (1)「学校を核とした地域力強化プラン」市町担当事業関係者(各市町担当者)
(2)公立幼稚園、小・中学校教職員
(3)地域学校協働活動推進員・地域コーディネーター・統括的コーディネーター等
(主)新規導入市町および今後導入予定の市町を対象とした内容
- 日時** 令和3年7月8日(木) 13:30～16:00
- 会場** 滋賀県庁 東館7階 大会議室 (大津市京町四丁目1番1号)
オンライン(Zoom)による参加も可能
- 内容**
 - 講演(60分)
演題:「魅力ある地域づくり・学校づくりを目指して ～具体的な体制づくりと役割～」
講師:宮治 一幸 氏
令和3年度「学校を核とした地域力強化プラン」推進協議会座長、
元CSアドバイザー、湖南市立石部中学校元校長
 - パネルディスカッション(45分)
テーマ:「地域にとっての学校、学校にとっての地域の在り方」
パネリスト:3名
伊藤 照男 氏(CSアドバイザー、岩根小学校元校長)
西 敦生 氏(東近江市生涯学習課 指導主事)
和田 昌子 氏(米原市立大東中学校 校長) [五十音順]
- 参加者数** 70名(来場39名、オンライン31名)

8 講演・パネルディスカッションの概要

講演は、『魅力ある地域には、魅力ある学校が存在』し、また、『魅力ある学校づくりは、魅力ある地域づくりにつながる』と信じている」という言葉から始まった。学校は地域の中にあり、子どもたちは地域から通ってくるのだから、学校運営協議会制度を利用して、「学校は地域と一緒に子どもたちと関わっていこう!」という基本的なスタンスの説明をいただいた。講演のキーワードは、学校と地域は「対等」の関係であること、「手間暇」をかけて「手間暇」を楽しむこと、学校運営協議会で出会える

のが「楽しみ」であること、であった。宮治先生のご経験から、湖南省立岩根小学校と湖南省立石部中学校における取組について具体的に説明いただくことで、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進の方策についてのヒントをご教示いただいた。

パネルディスカッションでは、①コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の効果や課題、②地域と学校の取組を持続可能なものにするために必要な視点、③学校の負担感を払拭するための方策、④学校と地域の関係づくり、⑤学校と地域の理解を深めて事業を進めていくための方法、⑥CS導入の義務化によって懸念されること、についてパネリスト3名のそれぞれの立場で意見を述べる内容となった。教職員、行政職員、地域学校協働活動推進員の方々にとって、今後の取組へのヒントを得られる場となった。

9 参加者のアンケートより

- ・コミュニティ・スクールは、『しなければならない』と捉えるのではなく、『どんな学校にしたいか』を地域と学校が一緒になって進めていくものだと理解した。
- ・何を話し合うかということから、地域と学校が対等の立場で時間をかけて1年1議題で熟議するという話が心に残った。
- ・目の前の子どもとどう関わりたいのかという強い思いを持って設置に向かいたい。支援から協働へのベクトルで頑張っていきたい。
- ・研修に参加し、頭の中が少しずつ整理されてきました。魅力ある地域づくり学校づくりをめざして、楽しんで取り組めるようにしたいです。
- ・同じ不安をパネリストの方々が質問してくださったので大変参考になった。
- ・それぞれの立場の方からの意見を聞き、学校の不安を受け止めつつ、それでも子どもたちに力を付けるために、CSをいかして学校づくりを進めること、持続可能なためにもそのスタートに共有のビジョンを明確にすることが重要であると学ぶことができた。
- ・「持続可能な活動にしていく」ことが大切だと改めて感じた。そのためには、児童・生徒の表情がイキキと変わる姿・場面というものを、地域の方々、保護者の皆さん、教員が共有することからスタートすることが大切だと思う。また、児童・生徒や教員に、地域の方々の笑顔が見え、言葉が聞こえることが成長につながり、課題解決につながると思った。

